古石ひでさと4期目に向かっての議会活動
古　石
ひでさと
後援会だより
URL：http://古石.com/

第3012号
発行日　令和2年2月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南1条1丁目
TEL　26－2226

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

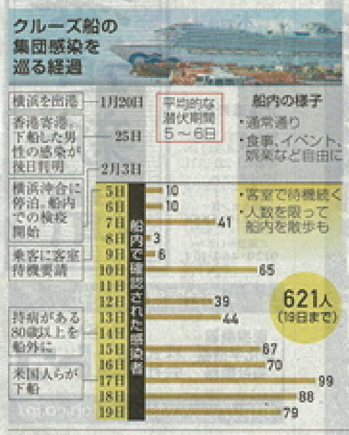
E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

クルーズ船感染

クルーズ船感染 ２回の波

新型肺炎 国立研分析

船内イベントで拡大 客室待機後 乗員で増



クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」で起きた新型コロナウイルスによる肺炎（COVID19）の集団感染で、国立感染症研究所は19日、乗客の感染の多くは客室待機が始まる5日より前に起き、待機後も続いていたとの分析結果を発表した。感染は船内で行われたイベントなどを通して広がったとみられる。一方、10日以降は乗員の発症が増加。一部の乗員が船の維持に必要な業務を続け、隔離が不十分だったとの見方を示した。

感染制御の助言のため船に入った日本環境感染学会の桜井滋・岩手医大教授は「感染には2回の波があった」と指摘。「最初はパーティーやビュッフェなどの乗客同士の交流だったが、その後、乗員のサービスの提供で広がったと推定される」と話した。

感染研の報告書によると、分析対象は19日までにウイルス検査で陽性となった531人で、うち466人が乗客、65人が乗員だった。255人（48％）は症状がなかった。

発症日が分かった184人のうち33人は、客室待機が始まる5日以前に発症。6～9日には乗客79人、乗員10人の計89人が発症した。潜伏期間を考えると5日の客室待機開始前に一定程度、感染が広がっていたのは明らか。その後発症者は減少傾向にあるため、脇田隆字所長は「（船内での）隔離が有効に行われたと確認した」と述べた。

10日以降は乗員の発症が増加。15日までに乗客32人が発症した。乗員は30人だった。隔離が不十分で乗員に感染が広がったとみられる。乗客では患者と同室の人が発症するケースが多くなった。脇田所長は乗員から乗客に感染したという見方については「証拠はない」と指摘した。

ただ専門家の中には、症例数が限られている上、今は症状がないが今後発症する人もいると考えられるため「客室待機後に感染が減ったとは断定できない」との意見もある。

専門医「船内は悲惨」

一時乗船 動画で態勢批判

新型コロナウイルスの集団感染があったクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」に一時乗船した感染症専門医の岩田健太郎神戸大教授が19日までに「常駐している感染対策の専門家が一人もいない。（ウイルスのいない安全な）グリーンゾーンも（危ない）レッドゾーンもぐちゃぐちゃになっていて、全く区別が付かない」と告発する動画をウェブサイト「ユーチューブ」に投稿した。投稿した動画は日本語と英語の2種類。再生回数は19日夕に計100万回を超えた。

野党議員のヒアリングにビデオ通話で応じる岩田健太郎神戸大教授＝19日午後、国会

投稿を受け野党議員は19日、国会内でヒアリングを実施。ビデオ通話で応じた岩田氏は「感染は医師や検疫官の拠点が船内にあるためだ」などと指摘。ウイルスに汚染されていない船外に拠点を移すべきだと訴えた。さらに、船内の状況が十分伝わっていないとして「都合の悪いこともオープンにし、うまくいかなかったことも認めるべきだ」と指摘した。

岩田氏によれば、災害派遣医療チームに同行して一時乗船したのは18日。投稿で「熱のある方が歩いて医務室に行ったりする」と船内は混乱している上、送り込まれた医療関係者らも感染の危険が高いという。

実際に厚生労働省の職員や検疫官が感染したことを「むべなるかな（もっともなことだ）と思った」と述べ「自分たちの感染のリスクをほったらかしにして患者さんとかに立ち向かうのはご法度、ルール違反」と厳しく批判した。

自身が経験したエボラ出血熱などの現場と比べ「ものすごい悲惨な状態で心の底から怖いと思った。感染してもしょうがないと本気で思った」と振り返った。

批判の応酬

道 感染者の報告遅れに苦言

札幌市 中途半端な公表に疑念

新型コロナウイルスの感染者に関する情報公開を巡り、道と札幌市が互いに批判を繰り広げている。情報提供を道に任せてきた札幌市は19日、方針転換し、道内3人目の感染者が札幌市内の40代男性と公表。感染者の居住地を管内単位での公表にとどめる道にしびれを切らした形だ。だが、市の公表は感染判明から18時間後で、道からは市の発表が遅れたことへの不満が漏れる。

「検査で陽性反応が出た時点で連絡いただきたかった。反省すべきは反省し、札幌市としっかり協議したい」。鈴木直道知事は19日夕の記者会見で、札幌市に苦言を呈した。

市が男性の陽性を把握したのは18日午後6時ごろ。市の矢野公一保健福祉局医務監が道の橋本彰人保健福祉部長に電話で感染を伝えたのは19日午前9時。秋元克広市長が記者会見で公表したのは同日正午にずれ込んだ。矢野医務監は報道陣に対し「男性は自宅にいた。（道への報告が）半日遅れたことで感染拡大には至らない」と強調。秋元市長も記者会見で「行動範囲など必要最小限のものを把握した上で発表内容を確定する必要があった」と説明した。

一方、独自公表に踏み切った市幹部からは、道への恨み節が漏れる。

厚生労働省の指示で感染者に関する情報公開は道に一元化されてきた。だが、道は居住地域などを非公表にしたことが批判を浴びた後も、道民初の感染者の男性を「石狩管内」と管内単位での公表にとどめた。

市が14日に設けた電話窓口には、18日までに計1066件の相談が寄せられ、4割近くが「石狩管内といってもわからない」など詳細な情報を求める意見だった。市幹部は「『石狩管内』と公表する際に道から連絡はなかった。道の中途半端な公表が疑念を招き、市の電話相談がパンク状態になった」といら立ちを見せた。

（中村征太郎、内藤景太）

新型肺炎で知的障害者大会中止

関係者「仕方ないが残念」

岩見沢 寄付金扱い未定

【岩見沢】新型コロナウイルスの感染拡大を受け、道内初の知的障害者のスポーツ大会の中止が決まり、フロアホッケー競技の会場だった岩見沢市内の関係者は「仕方がないことだが残念」と肩を落とす。市は大会への支援としてふるさと納税による寄付を募っていたが、集まった約570万円の扱いは「現時点で未定」という。（中沢弘一）

世界への
が、北海道から
はじま
2020 2/21-23

大会の中止決定を受け、市役所庁舎内に掲示していたポスターをはがす職員

スポーツ大会「スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム」は21～23日の3日間、岩見沢、札幌、江別の3市で行われる予定だった。岩見沢では22、23の両日、道教大岩見沢校の体育館でフロアホッケー競技が行われ、東京や神奈川、新潟、熊本などの計17チーム、338人の選手を迎え入れるはずだった。

市によると、大会期間中、市内では道教大生やスポーツ団体メンバーら延べ約240人がボランティアとして、会場内の警備や選手らの誘導などをする計画だった。ボランティアに登録した岩見沢歩くスキーの会会長などを務める松本敏也さん(80)は「選手に何かあっては大変」と中止に理解を示しつつ、「頑張っている選手たちの力になりたかったので寂しい気持ちはある」と話した。

大会に向け、開催地3市は、それぞれふるさと納税で寄付を募り、岩見沢では、14日の締め切りまでに目標の300万円を大きく超える570万5千円が集まった。17日に突然中止が決まり、寄付の使い道は大会を運営する公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（東京）と調整中という。岩見沢市は方針が固まり次第、寄付をした道内外の27個人12団体に個別に説明する考えだ。

大会に合わせ、市内の4カ所の旅館などに選手や関係者ら計約580泊分の予約が入っていたが、すべてキャンセルに。約半数が宿泊予定だったホテルサンプラザの担当者は「中止の判断は適切だと思う。厳しいがやむを得ない」と話した。

新型肺炎

クルーズ客下船開始

初日は高齢者ら500人

横浜港

新型コロナウイルスによる肺炎（COVID19）の集団感染が起きたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」で、高齢者を中心とした乗客らの下船が19日始まった。予定期間は21日までの3日間。初日の対象者は約500人で、ウイルス検査で陰性が確認された。乗客らは感染者が確認された5日から健康観察期間の14日間、客室で足止めされていた。当初約3700人いた乗客乗員のうち、感染確認されたのは計542人に上る。

（1面参照）

クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」から下船した乗客を乗せて出発するバス＝19日午前11時55分、横浜港（守屋裕之撮影）

下船した乗客の男性（77）は取材に「下りられてほっとした。1カ月ぶりに帰宅できるのでしっかり休みたい」と話した。

厚生労働省によると、17日までに乗客全員のウイルス検査を実施。結果が陰性で、医師らによる健康チェックでも問題がなければ下船の対象になる。21日までに終える方針だが、進捗次第では遅れる可能性もある。

下船した乗客は、バスで横浜駅など複数のターミナル駅に移動。そこから公共交通機関などを利用して帰宅し、日常生活に戻れる。厚労省が健康カードを渡し、何かあればそれぞれの地域でフォローアップするという。

感染者と同室だった濃厚接触者は感染の可能性を考慮し、後日下船する。乗員は検査結果が陰性でも、運航会社との調整が必要になるとしている。

クルーズ船は1月20日に横浜港を出発。途中寄港した香港で下船した香港人男性の感染が判明し、厚労省は乗客乗員全員を対象に横浜港で検疫を実施。検査で陽性となった人や発熱者、持病のある高齢者らを除き、乗客は船内の客室に待機するよう要請を受けていた。

一方、札幌市と相模原市で計3人が感染したことも19日、新たに判明した。国内で確認された感染者数は計619人となった。

クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」を巡る経過

1月20日	▸クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が横浜を出港。香港を経由しベトナム、台湾などを巡る
2月1日	▸香港まで乗船した香港人男性の新型コロナウイルス感染判明
3日	▸船が横浜沖合に停泊し、船内で乗客乗員約3700人の検疫開始
5日	▸乗客に個室待機を要請し健康観察開始。ウイルス検査で10人の陽性確認、医療機関に搬送
6日	▸10人陽性
7日	▸41人陽性
8日	▸3人陽性
9日	▸6人陽性
10日	▸65人陽性
12日	▸39人陽性
13日	▸44人陽性
14日	▸持病がある80歳以上を船外の施設に移す作業開始
15日	▸67人陽性
16日	▸70人陽性
17日	▸米国人らが下船し、米政府のチャーター機で離日。99人陽性
18日	▸88人陽性。船内感染者は計542人に
19日	▸検査で陰性となり健康観察を終えた乗客の下船が始まる

「無症状」入院2日に短縮

厚生労働省は18日、新型コロナウイルスの陽性反応が出た無症状の感染者の入院期間について、現在の12・5日から2日に短縮する運用を始めた。同省は無症状の感染者が他の人に感染させるリスクが低いと判断しており、今後感染者が増加する可能性を想定し、必要な病床数を確保するのが狙い。同日、全国の都道府県などに通知した。

新たな運用では、感染者は入院して48時間後にウイルス検査を実施。陰性が出たら12時間空けて2度目の検査を行い、2回とも陰性だと退院できる。陽性の場合は、改めて48時間後に検査する。

同省はこれまで、世界保健機関（WHO）の潜伏期間に関する見解に従い、無症状感染者の入院期間を設定。これまでは、12・5日の入院期間を経過した後、ウイルス検査を12時間ごとに実施、2回連続で陰性が出たら退院を許可していた。

感染者と家族ら 愛知の病院到着

4人に症状

クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の新型コロナウイルス感染者とその家族ら32人が19日午前2時15分ごろ、受け入れ先の藤田医科大岡崎医療センター（愛知県岡崎市）に到着した。藤田医科大によると、うち男女4人にせきや発熱といった肺炎の症状があり、県内の医療機関へ搬送した。

同センターは4月に開院予定で医療機関の認可を受けていないため、治療はできず、経過観察を行う。藤田医科大病院の湯澤由紀夫病院長は記者会見し「厚生労働省の要請を受け、人道的な観点から受け入れを決めた」と話した。

大学側の説明によると、32人は40～80代で、感染が確認されたが症状のなかった24人と、ウイルス検査で陰性だが同行を希望した感染者の家族ら8人。センター到着後にせきや発熱などを調べるメディカルチェックを実施した結果、4人に肺炎の疑いがあった。

32人は18日夜に横浜港を出発し、バスで移動した。出発時にも同様の検査を受けており、4人は移動中に発症した可能性が高い。大学側は4人の年齢や国籍などを明らかにしていない。

同センターは19日午後に約60人、20日に約70人をクルーズ船から受け入れる予定で、計約170人の経過

新型肺炎拡大

新型コロナウイルスによる肺炎（COVID19）の拡大を防ぐため韓国の保健当局が国民に日本旅行自粛を呼び掛けるなど、東アジアで訪日忌避の傾向が広がりつつある。1月の貿易統計では対中国の輸出入の落ち込みも明確に。目に見えないウイルスが、人とモノの動きにはっきりと影を落とし始めた。

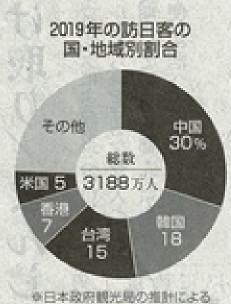
広がる訪日忌避 観光、貿易に影

客足戻らず／輸出も低迷

「日本に厳しい視線が注がれている」。国内で日々感染が拡大する中、国土交通省幹部は苦い表情でこぼした。

韓国保健当局は今月11日「感染症の流入を防ぐため」として、日本などへの旅行自粛を国民に勧告。台湾保健当局も14日、市中感染が起きている恐れを指摘し、日本渡航に注意を呼び掛けた。

1月27日から海外への団体旅行が禁止された中国と、韓国、台湾は、2019年の国・地域別訪日客数のトップ3だ。これに香港を加えた訪日客数は2236万人に上り、全体の70％を占める。



※日本政府観光局の推計による

日韓関係の悪化で激減していた韓国人客については、昨年11月下旬から訪日旅行の予約も増え始め「少しずつ回復の兆しが見えてくる」（田端浩観光庁長官）と期待されていたさなかの事態。政府が目指す「観光立国」への大打撃は避けられそうにない。

財務省が19日発表した1月の貿易統計（速報、通関ベース）によると、輸出から輸入を差し引いた貿易収支は1兆3126億円の赤字だった。

赤字は3カ月連続。春節（旧正月）休暇による生産休止が響き、中国向けの輸出が前年同月から6・4％減、中国からの輸入は5・7％減となった。新型肺炎拡大の影響が出た可能性もある。

マスクをして散策する外国人観光客ら＝1日、東京・浅草

輸出では半導体など主力の電気機器が大きく減少。春節休暇で1月に減った分は通常なら2月に上乗せされて急回復するが、中国経済は正常化には程遠く「2月以降も中国向け輸出の低迷は免れないだろう」（SMBC日興証券）との見方が広がる。

中国に端を発したサプライチェーン（部品の調達・供給網）の混乱は各国の生産に影響を及ぼし、世界全体の貿易が停滞する懸念も指摘される。

東芝の平田政善最高財務責任者（CFO）は「状況は悪化しているという印象があり、影響をつかみかねている。半導体の影響が大きく、見込み通りの売り上げがきれいに達成できるとは思いづらい」と話している。